

～ 中心市街地のまちづくり～

# “豪商のまち松阪” 活き生きシンポジウム

## 《 開催報告 》

■開催日時：平成26年5月31日（土）午後1時30分～午後4時

■場 所：松阪市産業振興センター 3階 研修ホール

■来場者数：102名

### (1) 挨拶

#### ●松阪活き生きプラン推進委員長 高島 信彦

みなさん、こんにちは。

お忙しいところたくさん集まっていたいただきまして本当にありがとうございます。

まず初めに、この『“豪商のまち松阪” 活き生きプラン』を聞いたことがある、分かっていますよという方、挙手をお願いします。はい、この『“豪商のまち松阪” 活き生きプラン』の前身は「松阪まちなか再生プラン」ということで3年間活動させていただいたわけですが、あまりにも成果がよかったということと、3年間やっただけでは寂しいということ、そして、市民の方々にこれだけ協力していただき、自分たちのまちについて一生懸命考えていただくことが多々あったということで、平成25年度から4年間プランの名称と内容を変え、『“豪商のまち松阪” 活き活きプラン』を作成し、本日、このシンポジウムを開くことになりました。

今回のシンポジウムでは、自分たちのまち、自分たちが行っている活動のこと、まちづくりに関して自分たちの意見を言っていたらこうということが主目的です。本日は、みなさんのご意見等をたくさん期待しておりますので、いろいろな意見を言っていたら、良い松阪、住みやすい松阪をつくりたいと思い、このシンポジウムを開催させていただきました。本日はぜひとも、「こんなことを言っているのか」ということも言っていたらいいというお願いをして挨拶に代えたいと思います。本日は本当にありがとうございます。



## ●松阪市長 山中 光茂

みなさん、こんにちは。

本日は、休みの日に本当に暑い日になった中で、「豪商のまち松阪」生き生きシンポジウム」に皆様方ご参加いただきまして本当に感謝申し上げます。

先程、委員長の方から話がありましたけれども、行政だけが、商店街だけが、商工会議所だけが、観光協会だけがつくるまちではない、地域の自治会長さんばかりが頑張るのではなく、みんながこのまちをそれぞれの責任や役割でいろんな方法で再生していこうというスタートラインが「松阪まちなか再生プラン」で、3年間、それに基づいて取り組みを行ってまいりました。「松阪まちなか再生プラン」を進めていく中で、60項目の具体的施策を作らせていただき、私も最初の方の会議には参加させていただいて、1項目ずつ時間をかけて議論をして、その後も毎月のように高島会長を中心として本当にいろんな方々が集まってその成果をチェックし、途中経過を報告し、発表会を毎年開催してきました。

今年は、市民の方々の意識が高まってくるところに、「松阪まちなか再生プラン」の次のステップとして『“豪商のまち松阪”生き生きプラン』を作らせていただきました。これも同じように限られた人、団体だけが取り組むのではなく、これからみんなが考えていって、スタートするものです。本日は、世代や男女、組織を問わずいろんな方々が来ていただいております。

来年、松阪市市政施行10周年になる中で、ひとつのまち松阪も大事ですし、地域の特性が輝く松阪市というのも大事です。私たち行政は、一緒に皆様方と汗を流して、まちなか再生、各地域づくり、そして一体感のある松阪市をつくっていくとともに、今日お集まりいただいている皆様のまちなか再生、地域づくり、そして次の未来作りということに対してそれぞれの役割を果たしていただくスタートラインとなるシンポジウム、意見交換会ができればと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。今日はですね、元香川県まんのう町職員さんで、現在は官民連携のまちづくりに取り組んでいらっしゃる天米一志さんにお話をさせていただきます。これから、おそらく三越も早い段階で来ていただくと思っておりますので、様々な事業との連動性も含めて、まちなかを皆さんで“豪商のまち”として盛り上げていけますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。

今日は本当にみなさまお集まりいただきまして感謝申し上げます。ありがとうございます。



# (2) 『“豪商のまち松阪”

# 活き生きプラン』の説明

発表者：松阪市 都市整備部 都市計画課長 長野 功

中心市街地のまちづくりを進めるために、平成26年2月に作成した『“豪商のまち松阪”活き生きプラン』について、ご参加いただいた皆様に冊子を配布し、内容を説明しました。



## 松阪まちなか再生プラン

中心市街地のまちづくりを進めるために、市民、商業者、各種団体、行政等が“みんなで考え、みんなで作る”まちづくり指針として実施するアクションプラン。  
《歴史》《商》《食》《住》《駅周辺》の基本目標をもとに60項目の具体的施策をもうけ、各施策の実行、推進を行ってきました。

期間：平成22年度～平成24年度（3年間）

結果：60項目の具体的施策を掲げ、  
20項目が完了、40項目が取り組み継続



- 『“豪商のまち松阪”活き生きプラン』の前身である「松阪まちなか再生プラン」についての説明です。

市民、商業者、各種団体、行政等が「松坂城跡の国指定史跡への指定」「原田二郎旧宅の改修」「まちなかへのベンチ設置」「新たな散策ルート設定」「まちなか開業塾の開催」「松阪えきまえ楽市開催」「トラック市開催」「地域の防災訓練実施」「JR松阪駅前工事」等の取り組みを行ってきました。

## “豪商のまち松阪”活き生きプラン

松阪駅を中心とした中心市街地のまちづくりを進めるために、市民、商業者、各種団体、行政等が、“みんなで考え、みんなで作る”まちづくり指針として、4年間（平成25～28年度）を目途に実施するアクションプランです。  
(平成26年2月作成)

理念：「食」を感じよう！「歴史」を温めよう！！  
そして、「人の心」をつなげよう！！ を継承し

目標： “まちの魅力を活かし住み心地のよい元気なまちなかにする”



具体的施策（28項目）



- 『“豪商のまち松阪”活き生きプラン』についての説明です。【歴史】【住】【商】の基本目標ごとに以下の方向性を示し、28項目の具体的施策に取り組んでいきます。

- 【歴史】 歴史・文化を体感し、次世代に継承する
- 【住】 住み心地のよい豊かな暮らしを実践する
- 【商】 おもてなしで千客万来の商店街にする

# 豪商のまち松阪 活き生きプラン

## (1) 松坂城跡を中心とした武家地のまちづくり

### ①国指定史跡松坂城跡の整備

平成24年3月に作成した松坂城跡保存管理計画に基づき、松坂城跡整備活用計画を作成し、国指定史跡としての保存・活用を図りつつ、市民が憩える松坂公園としての機能をもち備えた整備を行います。



### ②歴史的人物の顕彰

「蒲生氏郷」など松阪が生んだ偉大な歴史的人物を顕彰するために、官民一体となった取り組みを推進します。

### ③武家地の景観保全

武家地の景観を保全するために、市の景観計画に基づく重点地区の指定に向けた取り組みを行います。

冊子  
8  
ページ

歴史

●『“豪商のまち松阪”活き生きプラン』【歴史】についての具体的施策です。

## (1) 松坂城跡を中心とした武家地のまちづくり

### ①国指定史跡松坂城跡の整備

### ②歴史的人物の顕彰

### ③武家地の景観保全

## (2) 豪商と国学者が生きづくまちづくり

### ①旧長谷川邸の保存・活用

### ②旧長谷川邸の文化財調査

### ③観光交流拠点の整備

### ④魚町別館の取り壊しと跡地活用

### ⑤大手通りの道路整備

## (3) 食と歴史が織りなすまちなか観光づくり

### ①歩いて楽しいまちなか観光の推進

### ②まちなか観光と鈴の音バスの連携

### ③観光客にわかりやすいサインの整備

### ④観光客をおもてなす受け皿づくり

### ⑤魅力いっぱいの観光PR

●『“豪商のまち松阪”活き生きプラン』【住】についての具体的施策です。

## (1) 人の和が広がるまちづくり

### ①地域コミュニティの充実

### ②住民協議会による地域づくり

## (2) 住みやすい環境づくり

### ①快適な環境づくり

### ②環境美化に対する啓発

## (3) 安全・安心なまちづくり

### ①地域防災活動の充実

### ②ゾーン30の設定

●『“豪商のまち松阪”活き生きプラン』【商】についての具体的施策です。

## (1) 魅力ある店づくり

### ①お客様に愛される店づくり

### ②わが店のPR

### ③担い手の育成

## (2) 連動する商店街づくり

### ①地域との交流を図る取り組みの強化

### ②商店街の情報発信

### ③空き店舗対策と店舗の再生

### ④商店街振興施設の充実

## (3) 商店街と駅周辺の顔づくり

### ①魅力ある店舗等の誘致

### ②松阪駅周辺の土地利用の検討

# 豪商のまち松阪 活き生きプラン

## (1) 人の和が広がるまちづくり

### ①地域コミュニティの充実

町内、自治会、子どもから高齢者まで住民同士が交流する中で、みんなが元気にあいさつを交わし、子どもへの声かけを実行するなど、誰でも気軽に話ができる地域コミュニティの醸成を図ります。



### ②住民協議会による地域まちづくり

地域の身近な課題を地域住民が自主的かつ自立的に解決するために、地域のまちづくりを先導役として住民協議会の組織強化を図り、地域計画の作成に取り組みながら、計画を実行に移す地域活動を展開します。

冊子  
11  
ページ

住

# 豪商のまち松阪 活き生きプラン

## (2) 連動する商店街づくり

### ①地域との交流を図る取り組みの強化

地域密着型の交流イベントを開催し、地域に親しまれる商店街づくりを行います。



### ②商店街の情報発信

中心商店街の情報をリアルタイムに情報発信するために、IT技術を活用した松阪NAV Iなどを活用して情報発信を行います。

冊子  
15  
ページ

商

●『“豪商のまち松阪”活き生きプラン』【商】についての具体的施策です。

## (1) 魅力ある店づくり

### ①お客様に愛される店づくり

### ②わが店のPR

### ③担い手の育成

## (2) 連動する商店街づくり

### ①地域との交流を図る取り組みの強化

### ②商店街の情報発信

### ③空き店舗対策と店舗の再生

### ④商店街振興施設の充実

## (3) 商店街と駅周辺の顔づくり

### ①魅力ある店舗等の誘致

### ②松阪駅周辺の土地利用の検討

# 豪商のまち松阪 活き生きプラン

## 【施策の実行に向けて】

本プランを実行するにあたっては、市民、商業者、各種団体、行政等が連携しながら実現化に向けて取り組み、一人でも多くの皆さんが関わっていただくことが重要です。

一人でも多くの皆さんのご参加、ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

冊子  
17  
ページ

みんなで考え、みんなでつくる 松阪のまち

## (3) 【講演】

# みんなで考え、みんなで取り組むまちづくり

(株)五星パブリックマネジメント研究所 所長

あまめ かずし  
天米 一志

## プロフィール



1965年生まれ。1990年香川県まんのう町役場採用。中学校・体育館・図書館の複合施設を整備するとともに、行政改革や地域経済の活性化をPFI事業の業務範囲に加えた日本初の事業を手掛けられました。2012年7月まんのう町を退職され、2012年9月株式会社五星パブリックマネジメント研究所副所長、2013年同研究所所長に就任し、大阪大学CSCDコミュニケーション研究室やPFI/PPP推進協議会、(財)地方自治体公民連携研究財団でも研究員として活動されています。

市民と行政が協力して進めるまちづくりの活動に関わる中で、全国各地で「官民連携」をテーマに数多くの講演や研修の講師を勤め、まちづくりのエキスパートとして活躍されています。

天米先生には「みんなで考え、みんなで取り組むまちづくり」をテーマに講演をいただきました。今後のまちづくりは、官(行政)民(市民)連携で行なっていく必要があるという内容で、これまで天米先生が関わられたまちづくりの具体例を交え、「発想の転換」をキーワードにお話をいただきました。

「商業施設と公共施設の間にある通路に屋根を設置することで、広場としても活用され、利用者が増加し、近隣商店街活性化につながった」「斎場を友引の日にはコンサートホールとして、斎場の待合室を集会所として活用する」といった事例が示すように、ひとつの施設がひとつの「機能」しか果たさないのではなく、複数の「機能」を果たすという「発想の転換」を行なうことが大事とのことでした。

また、「機能」に注目してまちづくりを行っていくことも重要であり、まちというエリアの中にどのような「機能」が必要とされているか、みなさんのニーズを拾い出し、まちの中の空きスペースや活用されていないスペースを調査した上で、まちのどの位置にどういう「機能」を落としこんでいくかが大事で、それがまちづくりにつながっていくとのことでした。

そして、天米先生は、まちづくりの起爆剤として「公共施設」の存在を挙げています。まちには、建物の他に道路、橋梁、公園といった「公共施設」が存在しており、それらをうまく活用することがまちづくりにつながっていくとのことでした。天米先生のお話では、「斎場」「給食センター」「廃校になった学校」等「公共施設」を活用したまちづくりの事例が多く挙げられていました。

しかし、まちづくりにおいて注意すべき点は、ものごとを「正しいか、間違いか」ではなく「機能するか、機能しないか」という基準で判断を行なうことです。

公共施設や商業施設を造ろうとする時も、そのまちの人口動態や人口推計等のデータを踏まえて分析を行い、設計建設の時に決まる

「維持管理費」という、未来に残す負担も考慮し、「機能するか、機能しないか」という判断を行うことが大事であるとのことでした。

また、「発想の転換」により「機能」するまちづくりについて、みんなで考え、みんなで取り組んでいくための第一歩として、まちづくりについて無関心から関心が変わることが重要とのことでした。



## (4) 【パネルディスカッション】

“豪商のまち松阪” 生き生きプランを推進するために！



コーディネーター  
パネリスト

松阪市長 山中光茂

(株)五星パブリックマネジメント研究所 所長

松阪中央住民協議会 会長

松阪鈴おどり・鈴リン会 会長

松阪生き生きプラン推進委員長

天米一志 氏

山川良樹 氏

山中美幸 氏

高島信彦 氏

コーディネーター  
山中市長

それでは後半を始めさせていただきたいと思います。後半におきましては、ぜひ会場の皆様方からも声を聞きながら進めさせていただきたいと思っています。まずはパネリストの皆様方、まちづくりのキーパーソンばかりのみなさまに来ていただきましたので、多様なまちづくりのあり方について、いろんな話を聞かせていただくとともに、その後会場の方からもこの四名の皆様方にご質問もいただき、天米先生におきましては、コメンテーターという立

場で三人の話を、会場からの話を聞く中でご意見をよろしくお願ひ申し上げます。それでは、まず自己紹介を兼ねて三名の方々からお話を聞かせていただきたいと思います。まずは、こちらから順番でいきましょうか、松阪中央住民協議会の会長をしていただいています、山川良樹様から自己紹介を兼ねて今行っている事業、活動などのお話をいただければと思います。

パネリスト  
山川良樹 氏

はい、みなさん、こんにちは。わたくし、中央住民協議会の山川でございます。この生き生きプランの取り組みですが、小学生の子どもから100歳の高齢者の方まで自分たちのまちは、自分たちでつくっていくという郷土愛の精神を持っていただくと安心して安全で、誰もが幸せと感ずることが出来るまちは出来ると思います。これを推進していくのは我々市民でございますので、皆様方のご協力とご理解、ご支援をいただきまして、この生き生きプランを推進していきたいと思っております。皆様方の意見を参考にいたしまして持ち帰って勉強もしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

コーディネーター  
山中市長

実は、一人5分ずつくらいと伝えたら、萎縮されたかもしれないですが、もうちょっと話していただいても大丈夫です。山川さんにおかれましては、住民協議会の会長さんということで、中央住民協議会でいろんな活動をされてますよね。ゾーン30であったり、子どもさんの防災であったり、その辺りについてお話しいただければありがたいです。

パネリスト  
山川良樹 氏

まず防災のことなんですが、私は東北に1週間くらい行っていました。震災が起きて1週間の間は誰が誰か分からないということが起きていたとこのことです。この街でも避難所設営訓練を3回ほどさせていただきました。それをして感ずたことは、みんな誰かが、行政がやってくれると考えており、そういうことが起こってきますとライフラインもシャットアウトしますから、その時にどうしていくか、そのような話を長時間、繰り返して行ない、そのようにコツコツとやっている状況です。

また、この地域では第一小学校の子どもが毎月11日に町のゴミ拾い作戦を通学の時にやっています、これは商店街のみなさんと協力してやっていますが、「松阪は通学のときにゴミを拾っているいいことだ、自分のまちは無い」という意見を聞きまして、そういうことは親から手本を見せて始めるべきではないかと感ずております。



さらに、ゾーン30ということもやりましたけど、住民協議会では、松阪で何が一番恥ずかしいことか、悪いことは何かということから探して、交通死亡事故者数ワースト10に10年連続で入っていて、ゾーン30の地域の中で交通事故死者数は多いことは無いが、そこからみなさんで交通事故をなくす啓発をしていこうと取り組んでいるところがございます。よそから来てもらった人達に道を歩いてもらって楽しんでもらう、また車を運転する側から見るともっと走りよい道にしていくことを住民に今度提案していこうかと思っています。

コーディネーター  
山中市長

ありがとうございます。11日の交通安全の日にはですね、市職員、子どもさん、商店街の方々がゴミ拾いをさせていただいてまして、今後は企業の人と一緒にいう話もありますので、ぜひ街をきれいにする輪を広げていきたいなというところです。ゾーン30を聞いたことがないという人に説明をさせていただくと、時速30km以内で運転するゾーン30というエリアをつくるというもので、現在住民の方を中心に警察と行政が関わってやっておりますけれども、早い段階でそういう運動を市民から行なっているということを紹介させていただきます。

それでは、続きまして山中美幸さんにおかれましては、町の元気の象徴でですね、各地域のイベント、大きなイベントで鈴おどりを普及させていただいており、松阪市の歴史、文化、元気というものを与えていただいている第一人者でございますが、その視点からも自己紹介、活動のご紹介をよろしくお願いします。

パネリスト  
山中美幸 氏

こんにちは、よろしく申し上げます。山中美幸です。今日は男性の中の紅一点ということで、まず私が、まちなかのこと、お祭り大好き人間というルーツからお話させていただきます。私は久居出身で、小さい時は、いつも近くの神社で遊んでいて、春祭り、夏祭り、秋祭りにはいっぱいお店が出てまして、そういうのを身近に感じました。それから久居というのは陸上自衛隊があったので、仮装行列や伊勢音頭を踊るといったようなものに小さい頃から参加していた記憶があります。それらの体験が子ども心にすごく嬉しかったり、なんて楽しいんだろうと感じたのが私の原点です。

それから松阪に嫁ぎまして、祇園まつりの時に御輿がある日は賑わっているが、翌日は閑散としていて、何とかこれを賑わせてくれないだろうかと頼まれたのが最初だったのを覚えています。その時に北海道のソーランが出てきていて鳴子ではなく、本居さんだったら鈴だろうということで鈴を色々開発しまして、みんなに鈴を持ってもらい、みんなに鳴らしてもらって、本居さんを思い出すというのが発想で、それが始まりです。それが宣長没後200年の時に生まれました。それから10年間いろんな方と一生懸命やりまして、そ

の後も中心商店街で踊りたい、汗を流したいという声がすごく多くて、松阪鈴おどり鈴リン会をつくることになりました。そして去年なんですが、あべ静江さんがブランド大使ということで、この方が歌を歌ってくれたらということで頼んだらOKしていただいて、あべ静江さんの歌で鈴おどりが実現したということです。歌詞も曲も一緒ですが、歌があべ静江さんということで、先日、飯南のワンコインコンサートで鈴おどりのオープニングをさせていただきました。いろんなことで私たち一人だけではなく、市民の方、市役所の方、商店街の方など色んな方が関わって大きなものができるんだなと思いましたので、これからもみなさまの力を借りてすぐには実現できませんけれども、できる人ができることをやっていきたいなと思います。

コーディネーター  
山中市長

当時、祇園まつりで、鈴おどりが一部の人だけの負担になっていたということがあるので、山中先生だけ頑張るとか鈴リン会の方だけ頑張るとかじゃなくて、市民みんなで鈴おどりを普及させていきたいですね。



パネリスト  
山中美幸 氏

一回目の時は2000人近く集まりました。予算もあり、コンテストという形でしたので、東京や大阪など全国から参加いただいて本当に華やかでした。五年間くらいはそれで持っていましたが、人が少しずつ減り、夏の暑さがあり熱中症に子どもたちがかかって、参加人数が減ったりと、後の五年間は私たちが少ない人数でやってきました。それで夜になると手作りの鈴を一個500円で皆さんに売って資金を得ていたというあとの五年間です。現在も、集まった人の中から鈴を考案していただいて新しい鈴として作っていただいています。

コーディネーター  
山中市長

来年は宣長祭りで鈴踊りを踊っていただければと思っておりまして、来年、市政施行10周年でして、鈴おどりは松阪の文化ですので、10周年記念のオープニングで鈴おどりを踊っていただければと思いますし、みんなで文化発信ができればと思います。続きましては、まちづくりの大御所でございますこの数年間ものも言いますが、行動もする、松阪市の街づくりのご意見番、高島信彦さんに自己紹介やこれまでの思いも含めてお話いただければと思います。

パネリスト  
高島信彦 氏

プレッシャーをかけられまして、とりあえず、ここで言いたいの  
は自己紹介はあまりしたくありません。というのは、今日、これだ  
けの方が参加しているということに自分も感動してますし、会場の  
皆さんにご意見を一人でも多くいただきたいということで、自己紹  
介に時間はなるべく掛けたくないということを考えてます。

昔は、「行政主導」という言葉が流行ったんですが、自分的には  
この行政主導という言葉は好きではありません。市政はひとくくり  
的なところがあって、地域毎の体質にあった市政をしていただきたい  
ので、行政主導というのが好きではなかったです。まちづくりを  
するようになってから何十年になりますが、皆さんも、世間の風潮  
も変わってきたと思います。その中で住民は自分たちの地域にあっ  
た市政を行ってほしい、自分たちの住んでいるまちが子孫に自慢で  
きる町並みにしたい、そういう思いがあり、まちづくりについて皆  
さんから意見をいただきたいというところでございます。

自分が行なっている活動ですが、冊子の10ページにあります、  
蒲生氏郷顕彰会というのがあり、この近くに参宮街道が通っており、  
蒲生氏郷で栄えた町、樂市樂座で栄えた町という松阪に住んでいる  
わけですが、それをもっと勉強しながらまちづくりを進めていきま  
す。そして、偉人顕彰団体協議会を立ち上げ、偉人を顕彰していく  
という活動を行っています。

コーディネーター  
山中市長

先程おっしゃられた偉人顕彰というところですね、蒲生氏郷顕  
彰会の会長をされていたり、偉人顕彰団体協議会という中で、偉人  
顕彰の今後のあり方についてお話いただきますでしょうか。

パネリスト  
高島信彦 氏

偉人顕彰団体を立ち上げ、地域ごとに、活動している自慢できる  
先人、偉人を顕彰しようというのは、それらの人々を広めることに  
よって各地域のネットワークが強化でき、まちづくりにつなげてい  
くことができ、もうひとつ大きな意味で言うと、市づくりにつな  
がっていったらいいなと考えています。自分的には大きな願望です  
けれども、一人一人が自分の地域の自慢できること、自慢できる人、  
漬物を漬けるが上手なおばあさんでもいいです、天米先生の話では  
ないですが観点を少し変えていただければ出てくるものがあるか  
と思いますので、私はそのように地域のネットワークを強化しながら  
まちづくりをしていきたいという考え方でいます。

コーディネーター  
山中市長

偉人顕彰については、市内、飯南、飯高、三雲、嬉野という地域  
がある中で偉人の顕彰をする形で市政10周年を迎えたいと考えて  
おり、偉人をピックアップするような企画を行なう形で市政10周  
年をやりたいと思っております。では、もう一周回ってくる中で天  
米先生に意見を聞いて、会場のほうに振らせていただきたいと思  
います。

それでは、山中さんは鈴おどり鈴リン会だけではなく、市民参加の中核としてスポーツイベントをやっただいてますけど、市民参加ということに対して思うことをお話いただければと思います。

パネリスト  
山中美幸 氏

私は、鈴リン会以外にスポーツ指導員をやっており、いろんなイベントに関わっています。その中で一番いいのは、みなさんに参加いただいて、体操する、体を動かすことです。たくさん人が集まりますので、それはありがたいことだなと感じております。またグランドゴルフについても年々人が増えてまして、ぜんぜん知らなくてもできるのいいなと思います。また、私が花岡の住民協議会で進めている花丸体操というのは、総会の前には必ずするということで、取り組んでいただくことができました。機会あるごとに花岡の住民の中に浸透していくようにやらせてもらっています。

この前もこどもまつりがあり、子どもたち、踊り手が350人、それに色んな店が出まして、25000人が天気も良く、風もなかったので集まりました。ですので、仕掛けの方法、内容、天気によってこれだけ人が集まるのだなと思いました。こどもには材木や粘土遊びなど作るものに人気があったようです。ただ、それだけでは足りなくて、いろんなことを仕掛けたので成功だったと感じました。子どもは動かすことが大好きで、子どもが参加すると家族が一緒ですので人数が一気に多くなります、また、終わったらサッと退くというのも特徴ですね。子どもを参加させることは良いことだと思っておりますので、最近では裏方に回り、仕掛けをたくさんするようにしています。

コーディネーター  
山中市長

イベント参加というと、若い世代の参加率は低いように感じますし、年配の方の参加率は高いように感じます。若い人達を参加させようとした時は、子どもが参加できるようすることが大事ですね。

パネリスト  
山中美幸 氏

かなり前の話ですが、男女参画の委員をしていた時に若い人を集めようとするとか何かイベントや催し物が必要で、そこには予算が必要になってきます。結果として中高年のメンバーが集まるということになったんですけども、若い人を呼ぶというのは色々考えさせられることがたくさんありますね。

コーディネーター  
山中市長

今年競輪事業についても子ども中心のイベントをしたら、競輪場が子どもでいっぱいになるのを初めて見ました。若い人が多いと盛り上がりますね。あとは女性の方々がいると本当に盛り上がるので、そういうまちづくりの仕掛け、本日もたくさんの女性の方々が来ていただけてますけど、若い世代、女性の方々が来ていただくというのがまちづくりを盛り上げるひとつの要素かと思います。

それでは、山川さんは消防団で活動されてまして松阪市全域の消防団の中核でもありますし、まちなかでは自治会長さんをはじめ、まちなかの地域づくりの中心でもあります。地域づくりについて、過疎地域や山間部は大変な一方、地域のつながりは非常に強くて、それとは違い、まちなかのまちづくりは難しい部分もあると思いますが、その辺りの視点からいかがでしょうか。

パネリスト  
山川良樹 氏

一番難しいのは、若い世代がイベント等に参加するのがすごく少なくなってきました。消防団もまちなかというのはどんどん難しくなっている。三雲、嬉野といったところは伝統があり、後継ぎがいるが、松阪は後継ぎがない状態です。逆に女性消防団というのが松阪にもあるんですが、だんだん増えてきています。それはいいことだなと感じております。

みなさんに意見を聞きたいのは、中心市街地で若い人を確保していくための意見があれば聞いてみたいと思っております。市内においては、小学校に行っている子どものお母さんたちの見る目は違います。メール等の情報網はすごく早いです。いろんな情報も流れるし、いろいろ教えてくれます。お母さんたちに子どもと一緒にいろんな行事に参加してもらいたいです。明日も第一小学校では避難訓練がありますが、明日は子どもたちが避難する時に、親に対しての引渡し訓練を行ないます。災害が起こった際に、先生が先に帰っては困るし、子どもを面識の無い人に引き渡してはいけないので、そのような訓練を3年やっていますが、その訓練を明日もします。

コーディネーター  
山中市長

まちなかの地域づくりが難しい中で、山川さん自身が消防団活動やひとり親や高齢者へのフォローアップで汗を流している姿に対してみんながついていっていると感じるところでありますし、あとで高島会長から本格的に聞きますが、若い人達に話を聞きたいという声もある中で、後ろに商店街の方が目についたりするんですが、突然の振りですが、まちなかにおける若者の活動という視点でどうですか。

来場者A

こんにちは、商店街連合会で副事業委員長をやっています。こういう場に来ると商店街の人達や若い人たちが来ないという、私は二重にかかってまして、けっこうレアな存在かと思うんですけども、批判ではないんですけどもと言いながら批判させていただくんですけども、50代、60代の考えられたイベントというのは20代、30代にはあまりおもしろくなかったりします。人は、金儲け以外に楽しいかどうかということが結構重要だと思うんです。



イベントをしている時に20代、同年代の人は来るかなと考えた時にあまり来ないなというのが多いと思います。逆に20代、30代が考えたようなフットサルのようなイベントは50代、60代はあまり行かないと思うんです。そういう部分で若い人の意見が拾えてないのかなと思います。

会議などに行って、ご年配の方が揃う中で意見を言うのはかなり勇気が要るので、そこをうまくコーディネートしてもらい、意見を吸い上げてもらえるような会議の場ができれば少し変わってくるのかなと思います。あと30代の方は子育てや家庭の事情が多いので、それも考慮していただきたいと思いますので、若い人が来ないからダメというのではなく、長時間の会議で何も話さず帰ることもあるので、会議そのものを楽しい場に変えていっていただいて、自分たちが意見が言えたり、反映させてもらうことができればイベントも若い人向けの内容ができるのではないかなと思います。

コーディネーター  
山中市長

すばらしい意見が出ました。山川さん、住民協議会などにおいても若い人たちが意見を言いにくいという意見が出ましたが、どうですか。

パネリスト  
山川良樹 氏

その通りでございます。30代と50代の意見はかなり違っており、若い方の意見が反映されにくいことは、反省しなければいけない部分があると考えている次第です。

コーディネーター  
山中市長

中央住民協議会はどうですか。

パネリスト  
山川良樹 氏

若い世代の人達に出てきてもらいたい。私も今頑張っているが、今までになぜ若い人達を育ててこなかったかというのが反省です。松阪中央住民協議会も私が一番若いので、若い人達も出てきてもらえるように、よろしくお願いします。

コーディネーター  
山中市長

43の住民協議会の総会やイベントに行かせてもらうが、山間部地域の方が若い世代と共に自然な一体感でやっていることが多い。山、海沿い等の人口が多くない地域の方が若者との一体感がある、若者が役割を果たしており、住民協議会の総会で若い世代が役割を担っていたりする。自治会長さんというと年配の方が多いが、まちづくり協議会は若い方も入っていることも多いので、強引に関わっていくというの必要かと思います。山間部等であれば若い人達に任せて、それを自治会長等の年配の方々がサポートするという形が見えます。さて、今までの話の中で天米先生、コメントの方をお願いします。

パネリスト  
天米一志 氏

三人の方の感想なんですけど、市民から発案しているゾーン30、市民が成長させている文化、鈴踊りですね、あるいは偉人顕彰会、どれをとっても市民の中から生まれてきているコンテンツというのが非常に印象的です。ただし、考えなければいけないのは、そこにキーマンがいるからできているので、それを次の世代、次の世代のキーマンがちゃんと育つかどうかが課題だと考えております。

今、まちづくりには、歌でまちづくりをしている地域もあり、歌は馴染みのあるみんなが口ずさめるような歌を、偉人の名前を活用して作っていくというのも松阪の歴史文化が入ってくるので、いいかもしれません。

先程言われていた、若い世代の活躍ということなんですけど、これは人の心理から考えると、権限を委譲される、任されるということは非常にモチベーションが上がります。

これは組織でも会社でも同じで、若い世代で意思決定していないと、年をとってから意思決定することが非常に難しくなるので、若い人達に意思決定させる仕組みづくりも地域をつないでいく方法かと思います。ふと話を聞きながら事例を思い出したんですが、ある自治体が財源、権限を地域におとしました。これまで行政がやっていた自治会事務とかいろいろな業務を予算を組んでやっていたものを新しい組織に落としました。

既存の組織に落としてしまうと力関係があるので、新しい組織に落としていきました。そうすると今までは権限があったが財源がなかった、両方手に入れた地域の人達は目の輝きが変わったみたいです。



ちょうどその時に火災報知機を各家庭に付ける話があったんですが、実際に消防士さんを講師に呼んで、勉強して各家庭つけて歩いたそうです。これをモデル地区にして他の地域も声を上げて、今は7つの地域に広がったという事例もあります。という様に、その地域の人達に刺激を入れて、どう関心を持たせるか、無関心に関心に変えるかというのが今後のまちづくりにもなると思ったところです。

コーディネーター  
山中市長

ありがとうございます。一旦、一区切りという中でですね、会場の皆様方からパネリストの皆様方へのご意見、または行政へのご意見でも結構でございます。あとは、私たちのところはこんなことをやっているという自慢でもけっこうですので、パネリストからも会場から意見を聞きたいという意見もあったので、ぜひ何かご質問、ご意見、自慢いかがでございましょうか。

来場者B

久保町に住んでいます。下村市長の時にはこういうシンポジウムは無かったんですが、市長が変わられてからはたくさんシンポジウムがあって私は良かったと思っています。ただ非常にお忙しいかと思えますので、お体には気をつけていただきたいと思っております。

長谷川邸のことなんですけれども、すばらしい屋敷を寄付されて、この前も金曜日と日曜日に行ってまいりましたが、文化課の方からお話があったんですが、これからどのように維持管理していくかということが出てきますが、市民に寄付を募って基金を作って、市民が維持管理していけばいいと思います。また、松阪出身の有名人や著名人がいますので、その方に寄付を募るのも方法だと思います。

また、江戸時代、明治時代、大正時代の古い建物が残っているのですが、松阪市の建築家、大工にボランティアで文化課の方がやっている説明で建物についてをやってもらえれば、市民もよく分かるのではないかと思います。以上です。

コーディネーター  
山中市長

後ほど高島さんにお話をいただきたいと思いますが、長谷川邸のあり方については、県や国の重要文化財にしていくことも大事かと思いますが、市民の心に物語としてその歴史を感じさせるものがないければ重要文化財、国宝であったとしても、人がつくったものに名前をつけるだけであって、現在のまちづくりの中で活かされるということが一番重要と思っております。

長谷川邸についても、市民に受け入れられ、どのようにまちづくりの中で活用していくか、いかに市民の方に見ていただき、市民の方々や子どもさんに歴史を感じてもらえる豪商の館にしていくか、蒲生氏郷公を顕彰するための施設として歴史民俗資料館などのあり方も考えていく、そして本居宣長記念館の今後のあり方を考えていく中で、歴史上のつながりがこのまちに生まれてくる、ものが残るだけではなく、人の心が次の世代へ歴史の背景と共につながっていく、そういうまちづくりをしていければと思っております。

パネリスト  
高島信彦 氏

市長さんが言われたことが大筋だと思いますが、その言葉の中に一つ足りていただきたいのは、文化財を活用することが今後、非常に重要になってくると思います。

もう一点、分かりやすい表現で話をすると、地域の人を活用するような文化財の活用が必要かと思えます。現状としては、文化課の方が一人で説明をされていますが、それ以外に長谷川邸に長くお住まいでそこに勤めてみえた方、今日も参加してみえますが、その方の力も借りながら地域に根付いた文化財の活用というのも必要ではないかと考えています。

そして、本町、魚町周辺には7軒ほどの豪商がいましたが、何でも造ったらいいと僕は思いません。旧長谷川邸のところに三井のものを持ってくるのではなく、歴史を踏まえた中で保存活動をしていく、歴史を踏まえた中で施設をもってくるというのが非常に大事だと思います。何でも施設をつくったらいいという考え方は僕間違いだと思います。

コーディネーター  
山中市長

おっしゃる通りで、三井の跡地、まさにここ、そしてその隣の魚町別館や三重信用金庫の跡地をどのように活用するかがこれからの課題です。

また急に振らせていただくんですが、長谷川家の番頭さんとしてずっといらっしゃった方が見えますので、せっかくなんで長谷川邸への思いというものをお願いします。

来場者C

28日も新たに大判小判が出てきて、新聞やテレビの全国版で報道されました。当主の方も寄贈に至ってから、この機会を通じて松阪市の発展に寄与できたらと喜んでおりました。松阪市に寄贈して長谷川家当主が13、14代守ってきた歴史というものがさらに花開き、そしてそれが松阪市の活性化につながることを本当に希望とされているところですので、松阪市の活性化に寄与できたらと思っております。

コーディネーター  
山中市長

私も3年前から旧長谷川邸の寄贈について、ご当主と何度も協議をしてきた時に、文化という視点は大事だけれども、観光、まちづくりのために活用をしっかりしていただきたいということを何度も言われましたので、そのような思いを受けて頑張っていきたいと思えます。

会場の皆様の他のご意見いかがでしょうか。どんなテーマでもけっこうです。

来場者D

まず偉人について本居宣長は有名ですが、その実子の春庭さんのことがあまり言われないのはなぜか。あと、自分はfacebookに色々載せてあって、三重県のマンホール、鈴は一般的なんですけど、もうひとつ牛のマークってありますよね。みんな鈴のマンホールは知ってるんですが、牛は私だけ見つけました。

また、住民協議会に興味を持っていますが、インターネットで調べてもよく分からないので、住民協議会のことをブログやfacebookでどういう活動をやったか、特にゾーン30はどういう活動をして、どういう結果が出たかということをやったりすると、若い人はまずインターネット、ブログを見て関心を持って問い合わせしますので、その様にしてもらいたいです。また、松阪市のビッグデータ、オープンソースって考えてますか。

コーディネーター  
山中市長

まず本居春庭さんの件なんですけれども、春庭さんの旧宅は国の特別史跡になっていながら、大事にし過ぎて、もっと活用する中で老朽化して修繕していけばよかったです、人に見せられることなく朽ちていっている状況です。活用していないと、人の心から忘れ去られていくというのは本当に思うところがあって、本居記念館の館長が言うのは、長谷川邸を第二の春庭宅にはいけないということです。春庭さんのこともこれから考えなければいけない一方で、文化としての保存も大事ですが、10年後、20年後に長谷川邸を残していくためにそれをどう活かすかというのも春庭宅、春庭さんの歴史というのも反省材料として踏まえた中で、歴史のあり方を考えなければいけない。

あとは、住民協議会ですが、住民協議会は自主組織であり、住民の方々が自分たちの地域でみんなで頑張っている組織です。現在は5つ、6つの住民協議会が、「ぎゅうっと松阪」というfacebookページを作っていて、かなり情報発信をさせていただいています。ただ、全地域にできてまだ2年で、各住民協議会がちょっとずつ汗を流して皆で頑張ろうとしている中で、松阪市のまちづくり協議会というのは全国でもここまで成熟したまちづくり協議会というのは無いと思っておりますので、まちづくり協議会の文化が成熟して発展していくようにしていきたいと思っております。

あとはビッグデータ、オープンデータという部分ですけれども、松阪市では様々な情報は伝えていくというのが基本だと思っておりますので、デジタル的なビッグデータという意味ではなくて、ひとつひとつの情報をきめ細かく整理をして、きめ細かく発信していくことが本当の意味でのオープンデータかなと思いますし、それを統合していくのがデータマネジメントだと思いますので、しっかりとしていきたいと思っております。



パネリスト  
山川良樹 氏

ゾーン30について、facebookに載せてありますので、また見てください。

来場者D

それと、AEDという緊急時に心臓を蘇生する機械ありますよね。あれは、松阪市で24時間使える場所って何箇所ありますか。

コーディネーター  
山中市長

何箇所かすぐには出てこないんですが、ホームページ上に載せています。学校や幼稚園などにも置いてあります。

来場者D

24時間使えますか。

コーディネーター  
山中市長

使えます。  
それでは、他にいかがでしょうか。

来場者E

私、天米先生の講演を聞いて、一旦決めた前例主義からの脱却と、正しいか正しくないかではなくて機能するかしないかという部分に非常に共感するんですけども、行政関係にはいつも言っているんですが、この中心市街地のゾーニングが、その典型だと思うんです。冊子の22ページの地図を見ていただくと、青の四角で示されていますけれども、右端にある愛宕町が全て抜けており、市民のみなさんへのアンケートではこのままで良いという意見が多数だったということなんです、そのこと自体を知っている人があまりいないと思うんです。

また、商工会議所さんが夜のまちあるきというマップを2年ほど前に作ったんですが、これを国道42号で切りますと、これに参加している店の大半がこの賑わいの対象である中心市街地から抜けてしまう、こういうゾーニングを私は何度か指摘していますけれども、決まったものは決まっているんだという返事しかない、本当に残念で、いくらこれだけいいお話を聞いて意見を言ってもゾーニング自身が機能しない、結局エリアに入るのは三十数店あるスナックの内の数店です。

こういうことをずっと言い続けているが、相手にしてもらえないというか、そういう態度は今日の機会に改めてもらって、広げるところでお金がかかるわけでもないので、そういうこと自体から頭を切り替えていただいてみんなでやろうということにしてほしいと思います。



コーディネーター  
山中市長

はい、みなさん愛宕町ってご存知ですよ。松阪の歴史のある歓楽街ということで、中心市街地まちづくりの歴史、文化、住という部分で入れていくべきではないかという議論も重要だと思います。その意見も踏まえ、住民の方にアンケートを取らせていただいたり、ご意見をいただく中で、今年から豪商のまち店舗改装補助金を作らせていただき、愛宕町エリアも補助金の対象にさせていただきます。

今後は柔軟に、歴史、文化、食、商いなどを機軸に具体的な事業として愛宕町がまちなか再生で必要な部分であったり、議論の中で入れていこうということであれば、議論していくことが必要とっておりますので、今後、多様なご意見をよろしくお願ひします。最近では愛宕町のお店を回るスタンプラリーをやっていたかたおありまして、スタンプラリーでお酒が飲める、そのようなひとつの文化として、こういうまちなか再生を行なっていければと思っております。他、みなさまいかがでしょうか。

来場者F

本日はありがとうございます。先程の話に続きまして、豪商のまち補助金を今年5月に出していただいたんですけども、生き生きプランの冊子15ページで、「豪商のまち店舗改装補助金の活用によって店舗の再生を図ります」ということが目的であると思っておりますけれども、今回内容を見させていただいてすごく外観、観光のイメージがすごく強いんですね。僕自身、いいお店とは外観が全てではないと思っております。お客さんのニーズやお店のコンセプトがしっかりしていることが一番重要になってくると思ひます。そういうことをまちゼミや勉強会で勉強しているんですけども、外観、観光の部分が自分の中でハードルになっているので、その部分というか店舗の再生の部分で考えていただければなと思ひます。



コーディネーター  
山中市長

これは、明確に言わせていただくと、外観に対する補助です。今回、この豪商のまちの補助金というのは、おっしゃるとおり外観に対する行政目的を持っています。民間事業者は民間事業者で行政の公費を入れて営業をするというわけにはいきませんので、民間は民間で努力をしていただいて、店舗再生という部分だけでは補助を出すことはできませんが、行政目的としての外観、外観を豪商のまちに見合ったものに整備いただける方にお出しする補助です。

逆にありがたい話ですね、今、まちゼミもお二方中心で地域全体や商店街活性化していただいている中で、公の目的としてこういう事業に税金を入れてもいいんじゃないかという話があれば、ぜひご提案いただいて、補助のあり方もしっかり考えさせていただくんですけども、税金を使うので「公平性」ということもあるので、またご提案をいただければと思ひます。

来場者A

まちゼミの代表をしていますが、今度6月に中学生の遠足を受け入れをするんですが、まちゼミのメンバーの中から有志で8店舗、これは完全にお店の持ち出し、集めた会費からさせてもらうんですけども、そういったものを提案させてもらったら何かバックアップは、いただけるんですか。

コーディネーター  
山中市長

今の話が、公平性か中立性かということがありますが、例えば他の事業者で子どもたちを社会見学で受け入れる企業もありますので、何を基準に行政が税金を出すのが公平なのか、まちの活性化や子どもたちの教育につながるのか、という説明ができればバックアップの仕方があるので、ルール作りが必要だと思います。

例えば、今回は豪商のまちにとして外観を考慮いただけるのであれば、内装面であるとか事業をリニューアルする際の店舗の再生ということで行政が協力しますよという補助金のルールを作った、これまでは空き店舗ということで新規の参入者に対して空き店舗を埋めるために考慮しますというルールを作りました。

今後は、まちなかや企業が子どもたちをこういう行政目的で受け入れるのに対して補助が必要というルールを作れば良いということになりますので、全体の誰にでも使えるルール作りが重要ですので、またご提案をいただければと思います。

パネリスト  
高島信彦 氏

『“豪商のまち松阪” 生き生きプラン』の説明があったと思いますが、その中で、自分たちはこういうことを考えてますよとか、質疑でもいいですけども、これだけの方がみえるのでお言葉をいただきたいと思います。



コーディネーター  
山中市長

どうでしょうか。逆に高島委員長の3年間再生プランに取り組んだ感想等お話いただければと思います。

パネリスト  
高島信彦 氏

3年間の成果、感想について、まず推進委員会は、官民協働でやっているというところが一番大きなところですよ。そして、行政に対して、自分たちがやっていることに対して、まちづくりに対して前向きになった、というのが大きく感じた点でありました。まちづくりについて、自分たちのまちに合ったイベント内容、行政内容、行事にしてもらいたいという意見、提案を行なう場を生き生きプランというプランニング、ネーミングを行なったということを特にご理解いただきたい。自分としては会を預かっている以上は市民の方々の、地域の意見を聞きたいと思ひましてご無理を言っていることご理解いただきたいと思ひます。

コーディネーター  
山中市長

これまで再生プランにも関わってこられた中野さん、女性の意見もあまりなかったもので、いかがでしょうか。

松阪生き生きプラン  
推進委員会  
中野委員

中野です。せっかくマイクをいただきましたので、少しだけお話をさせていただきます。私、ミズ・ネットワーク松阪というところで、市内7つの商店街の垣根を越えた女将さんの会で13年活動させてもらってます。その中でミズ・ネットワーク松阪の代表として再生プランの方に関わってまして、先日第8回松阪撫子どんな花まつりを開催させていただいて、先程若い方との関わりというお話がありましたが、楽市楽座という形でベルタウンの中で店をさせてもらったんですけれども、今年は3分の2くらい若い方が来ていただいて、松阪木綿の着こなしも斬新で、私たちが想像できないような格好で、私たちが想像できない楽市楽座になって、そういう方に意見を聞いていると楽しく参加できたと喜んでいただきました。そんな感じで若い人たちとの関わりも前進している状態ですので報告させていただきます。

コーディネーター  
山中市長

松阪撫子どんな花祭りというのを主催いただいて、本当に住民の方が作り上げるまつりの中心でやっていただいて、3年間、「松阪まちなか再生プラン」の委員としてチェックをしていただいて、どのようにまちづくりをやっていくか進めていただいています。では、山中美幸さんに女性の視点から、頑張っている女性の方ということでお話いただければと思います。

パネリスト  
山中美幸 氏

ありがとうございます。私は、みんなで一緒になって一緒のことをすれば、いっぺんにたくさん元気になるんじゃないかなという考え方を持っています。その中で、商店街のPRソングができたと思います。あべ静江さんが歌って、先日5月25日、発表されました。そして、私としては、歌ができれば、横で踊っていたいなという気持ちなんですけれども、今回は振り付けを女子高校生に頼みました。最初のところが手話になっていて、手話を音楽に入れて、いい仕上がりになりました、これからもぜひ私は私なりにみなさんに発信する、何か動かすことで男女問わず、年齢関係なく、身体障害者の人達もみんなでやればいいなと思ってます。この前も耳の日にろうあ者の方たちが見事に鈴踊りを披露してくださいました。そういうコラボもありますので、地域を問わ



ず、いろんなことを通じてみんなでまちづくりができたらいいかな  
と思っておりますので、消極的にならず楽しいことがいっぱいあり  
ますので、松阪はお肉も美味しいし、食べ物も美味しいし、歴史も  
ありますので、発信するものが発信しますので、チラシもみてくだ  
さい、参加してください、というのが私が言いたいところです。

コーディネーター  
山中市長

うまくまとめていただきまして、実は松阪市では、こういうシン  
ポジウム等は毎週末やっておりますので、またいろんなかたちで参  
加いただければと思いますし、その機会にご発言いただければと思  
います。最後に天米先生の方から今日のまとめ、今後のまちづくりに  
対する思いをよろしくお願いします。

パネリスト  
天米一志 氏

色々お話を聞かせていただきますと、「豪商のまち」というのが  
私の頭の中で「財宝のまち」に変わっていったような気がします。  
2014年、この年になって大判小判が出てくるまちですよね。でも  
まだまだ財産、人、物が埋もれている可能性があると思います。

財産は活用していくことが未来につながるという話だと思えます。  
「ジンザイ」の「ザイ」は「材料」の「材」を書きますが、これを  
「財産」の「財」に変えていく、人を育てるということです。この  
人たちは、未来に対して何かの効果を残す「人財」につながってい  
る、そういう意味では今お話を聞いていると、次の世代の人達の活  
躍の場をつくられている気がします。小学校、中学校の総合学習時  
の時間に工夫をする等、松阪でしかできないマネジメントを学んで  
いただくこともこの地ではできそうな気もしていました。

先程の中学生受け入れの話も税金を使わないで、流行のクラウド  
ファンディング、ファンドレイジングで社会に認めていただけるよ  
うな価値をキャッシュで得ていくというのもひとつのまちづくり  
じゃないかなと思います。

先程、中心市街地のエリアの話も出まして、この中心市街地の考  
え方もこの制度ができた時と現在とでは違うと思えます。中心市街  
地の考え方を松阪市さんとして機能するかしないかでみなさんと考  
えていく、発想の転換として行政が引いている市街地のエリアと市  
民がつくったエリア、2つあってもおかしくないと思えます。

今後いっぱい眠っている宝を活かし  
ていくと面白い町になるんじゃないか  
なと思います。最後、まとめになっ  
たかどうか分かりませんがコメントと  
して終わらせていただきます。



## (5) 閉会挨拶

●松阪市長 山中 光茂

まだまだ20分、30分話せそうな感じがありますけれども、時間も押してまいりました。先程の商店街の方々が提案いただいたような話って、素晴らしいなと思っていて、実は市長がお金を持っているよりも地域の方々、団体の方々がお金を持って使っている方がよっぽど有効に使うと思っています。実際、総理大臣がお金を持っているよりも市長が持っている方がまともにお金を使うだろうと、それよりも地域の方々が持っている方がうまく使うんです。

地域が盛り上がるように、役割やモチベーションが上がる制度設計をしていく必要があります、思いついてポンとお金をばらまくのであれば市長はいりませんし、行政職員はいらなくなりますので、今後、そのようなまちづくりをしていくシステム作り、地域作りのシステムをみんなで一緒に考えて、ご提案などもいただければと思います。

今後このような機会を持ちながら、みんなで一緒にまちづくりに意識が持てる機会をつくっていただければと思います。今日は本当にパネリストの皆様方、ありがとうございました。そしてご参加をいただきました皆様方ありがとうございました。



### ■お礼

当日は、陽射しが強く、暑い日になりましたが、多くの方に「“豪商のまち松阪” 生き生きシンポジウム」にご参加いただきまして、誠にありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

松阪市/松阪生き生きプラン推進委員会